

序

1978年に、1972年に発足した日本古医学資料センターが、(株)講談社の支援を得て、財団法人野間科学医学研究資料館として生まれ変わった。その後、野間資料館は25年間、西洋医学史資料の収集、学術講演の開催、機関誌の発行などを通じて日本における医学史・科学史研究の振興に大きく貢献した。2003年春、資料館が閉館する際に、国際日本文化研究センターがその全資料を譲り受けることになった。

野間文庫の図書は7,000冊を超える。その中で特に注目に値するのはラテン語、英語、フランス語、ドイツ語、オランダ語などで書かれている2,800点以上にものぼる貴重古医書である。1975年にビタミンEの発見者であり、蔵書家としても知られていたアメリカの医学研究者ハーバート・マクレーン・エヴァンズ (Herbert McLean Evans) の古書コレクションを(株)講談社が購入した。これがその後の野間文庫の核となった。その後、資料館は緒方富雄、小川鼎三、中村禎里、川喜田愛郎など国内の著名な医学史研究者から蔵書の寄贈を受けるほか、年々海外からも医学古典籍を積極的に買い求め、コレクションを着実に広げていった。

今日の野間文庫は日本における指折りの西洋医学史資料コレクションといえる。なお、国際日本文化研究センターはさらに宗田文庫という日本医学史資料の宝庫も保管している。今後、世界中の研究者たちが、東西の医学を跨るセンターの野間・宗田二文庫を活用して、新たな比較医学史を開拓していくことを希望する。

平成17(2005)年3月

国際日本文化研究センター

所長 山折哲雄